

平成18年度エコツーリズムシンポジウム 開催のお知らせ

日程：平成19年1月29日(月)～30日(火)(2日間)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
主催：環境省
後援(予定)：文部科学省、農林水産省、国土交通省
協力：NPO法人 日本エコツーリズム協会

環境省はエコツーリズムの普及、定着のために様々な取組を進めており、その一環としてエコツーリズムシンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、次の3つのプログラムを実施します。

- 第1部 開会式及び「エコツーリズム大賞表彰式」
～わが国を代表する優れたエコツーリズムの取組例を発表し、表彰します～
- 第2部「エコツーリズム推進オリエンテーション」
～エコツーリズム推進モデル地区の指定を受けた13地域の取組成果を報告します～
- 第3部「全国エコツーリズムセミナー」
～エコツーリズム推進のための具体的手法について実例を中心に紹介します～

プログラム

1月29日(月) 1日目

【会場：センター棟 501号】

12:00 受付開始

13:00-14:15 **第1部 開会式及びエコツーリズム大賞表彰式**

エコツーリズム大賞とは、エコツーリズムを実践する地域や事業者の優れた取組を表彰し、広く紹介するものです。第2回エコツーリズム大賞の表彰式と、受賞者(団体)からの取組発表を行います。

エコツーリズム大賞表彰式
エコツーリズム大賞受賞者による取組発表

14:30-18:50 **第2部 エコツーリズム推進オリエンテーション**

14:30-16:30 モデル事業実績報告(各モデル地区担当者による発表)

【会場：センター棟 501号、502号、107号、108号(第3類型は2つに分かれて実施します)】

最終年度を迎えたエコツーリズムモデル事業(平成16年度～平成18年度実施)の成果を、全国13か所の各モデル地区担当者が報告します。エコツーリズムの推進に向けて特に入力した施策の具体内容と効果、そしてこの先の展望など、実践を通して得られた成果と反省を具体的に発表します。この実績報告は、次に示す類型ごとに会場を分けて実施します。

類型1：豊かな自然の中での取組

知床地区 / 白神地区 / 小笠原地区 / 屋久島地区

類型2：多くの来訪者が訪れる観光地での取組

裏磐梯地区 / 富士山北麓地区 / 六甲地区 / 佐世保地区

類型3：里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取組

田尻地区 / 飯能・名栗地区 / 飯田地区 / 湖西地区 / 南紀・熊野地区

16:45-18:00 類型別エコツーリズム推進モデルの検討(3つの類型ごとのパネルディスカッション)

【会場：センター棟 501号、107号、108号】

資源性や市場性が異なる3つの類型ごとに、モデル地区担当者に現場経験の豊富なコメントを加えてパネルディスカッションを行い、3年間のモデル事業の実践経験から得られたエコツーリズム推進のための留意点や助どころを明らかにし、類型別エコツーリズム推進モデルの構築を目指します。実績報告と同様に、類型ごとに会場を分けて実施します。

18:15-18:50 類型別エコツーリズム推進モデルの報告(同モデルの検討結果の報告)

【会場：センター棟 501号】

類型別に行ったエコツーリズム推進モデルの検討結果を報告し、3年間のモデル事業の総括を行います。

19:00-20:30 **交流会(自由参加)** 会場：レストランとき(国立オリンピック記念青少年総合センター内)

第3部 全国エコツーリズムセミナー

全国エコツーリズムセミナーでは、エコツーリズム推進に欠かせない諸課題の解決に向けた具体的な手法や事例を紹介し、エコツーリズム推進のヒントや勘どころをお伝えします。今回で第3回目となる本セミナーでは、『エコツーリズムが地域資源を保全・伝承すること』に着目し、地域の資源の保全やエコツーリズム活動の継続のために欠かすことのできない6つの個別テーマに沿って、検討を深めます。

9:00-9:15

セミナー開催の挨拶

【会場:センター棟 501号】

9:15-10:45 基調講演「自然を楽しむ人、支える人 ~アパラチアン・トレイルを歩いて」

【会場:センター棟 501号】

世界最長 3,500 キロのアパラチアン・トレイル(米国)には、自然だけではなく、日本の里地里山のような歴史や人々の生活の魅力が詰まっています。ロングハイカーの成功を願い支える地元の人々、トレイルを維持管理するメンテナンス組織、国とボランティアとの理想的関係、ハイカーたちの心の交流など、トレイルを愛する人たちの姿をご紹介します。また、日本における理想のトレイルづくり「信越トレイル」の取組もご紹介します。

加藤則芳 かとうのりよし(作家/バックパッカー)

1949年埼玉県に生まれる。早稲田大学政治経済学部卒。角川書店編集部にて7年間勤務ののち、1980年に退社し、八ヶ岳に移住。森の生活を楽しみながら世界各地を歩き、国内外の自然や自然保護をテーマにした執筆活動を続けてきた。十数年来ジョン・ミューア研究にうちこみ、ジョン・ミューアの評伝『森の聖者-自然保護の父ジョン・ミューア』(山と溪谷社・小学館)を出版。1995年夏には、カリフォルニア州シエラネバダ山脈を貫くジョン・ミューア・トレイル(340キロ)を一ヶ月かけて完全踏破。その記録をまとめた著書『ジョン・ミューア・トレイルに行く』(平凡社)が、1999年度「第8回JTB紀行文学大賞」を受賞。ここ数年、「日本のロングトレイル」をテーマに、長距離自然歩道をふくむ国内のロングトレイルを探し、歩いている。また、2005年にはフットトレイルとして世界最長のアメリカ東部「アパラチアン・トレイル」3500キロを6ヶ月かけて一挙踏破した。他の著書に、『日本の国立公園』(平凡社新書)、『自然の歩き方50』(平凡社)などがある。現在、横浜市在住。

11:00-12:00 基調報告「地域資源の持続的な活用にむけた諸課題」

【会場:センター棟 501号】

地域の様々な資源を持続的に活用するために解決すべき諸課題について、エコツーリズム推進の取組の進み具合や地域の実状などを踏まえて整理します。

13:00-14:00

分科会1・2

【会場:国際交流棟 第1ミーティングルーム/第2ミーティングルーム】(2会場)

分科会1**「ルールや制度による資源の保全 ~関係者の利害調整と、合意形成を導く勘どころ~」**

地域に根ざした資源利用のルールづくり ~西表島仲間川の保全利用協定が実現するまで
広瀬敏通(NPO法人日本エコツーリズム協会 理事)

御蔵島におけるイルカウォッチングルールの運用方法

菱井 徹(御蔵島観光協会)

分科会2**「地域資源の伝承方法 ~忘れられた生活文化を発掘、利用によって次世代につなぐ~」**

地域資源の観光活用と住民参画の勘どころ ~農業体験の観光活用の実践例をもとに
青野広明(南魚沼市観光協会 事務局次長)

エコツーリズムと地元学

竹田純一(里地ネットワーク事務局長)

14:15-15:15

分科会3・4

【会場:国際交流棟 第1ミーティングルーム/第2ミーティングルーム】(2会場)

分科会3**「環境収容力(キャリングキャパシティ)の考え方~"何人までなら大丈夫?"は、測定できるのか~」**

キャリングキャパシティ算出の限界と新たな視点 ~米国における資源管理研究の系譜
熊谷嘉隆(公立大学法人国際教養大学 助教授)

利用者の快適性から算出した適正収容力 ~尾瀬の事例より

安類智仁(尾瀬保護財団 企画課主任)

分科会 4

「エコツアー販売の理想型 ～地域の望み、旅行会社の望み、その接点を探る～」

専門分野に特化した旅行会社の考え方～テーマ性の高い商品提案のために地域に期待する役割
水野恭一(風の旅行社「風カルチャークラブ」営業部長)
旅行会社がツアーをつくる一般的な手法～大手旅行会社がエコツアーをつくるケース
岩本則正((株)JTB 東日本国内商品事業部企画第1課企画担当課長)
地域から旅行会社に期待すること～知床の事例より
松田光輝(知床ネイチャーオフィス 代表取締役社長)

15:30-16:30

分科会 5・6

【会場:国際交流棟 第1ミーティングルーム/第2ミーティングルーム】(2会場)

分科会 5

「資源の状態変化の測定方法 ～誰でも簡単にできるモニタリングの手法を考える～」

科学的な視点を盛り込んだモニタリングの方法～外部研究者との連携の実践例
南正人(株式会社ピッキオ 代表取締役)
レクリエーション利用が自然資源に与える影響の測定方法～大雪山・利尻の実践例
愛甲哲也(北海道大学大学院 助手)
省力的かつ効果的な自然環境モニタリングの方法
茅野恒秀((財)日本自然保護協会総合プロジェクトAKAYA担当専任スタッフ)

分科会 6

「エコツーリズム運営組織のあり方～誰が地域をマネジメントするのか、運営資金はどうやって調達するのか～」

エコツーリズムを取り巻く団体の活動と資金源～知床の理想と壁
田中直樹(知床財団 普及研修係主任)
広域エリアにおけるマネジメント組織と資金の流れ～裏磐梯の理想と壁
酒井美代子(裏磐梯エコツーリズムカレッジ)
里地里山における地域組織とその運営～飯能が目指す理想像と現状
安藤泰雄(飯能市環境部エコツーリズム推進室 室長)

16:30-16:40

閉会の挨拶【会場:国際交流棟 第1ミーティングルーム/第2ミーティングルーム】

セミナー講師

広瀬敏通 (NPO 法人日本エコツーリズム協会 理事)

国内では草分け的なエコツーリズムの実践者として知られ、エコツアーサイトの開発、ガイドライン策定、エコツアーガイド養成等、全国的に活躍している。(社)日本環境教育フォーラム常務理事、(特)自然体験活動推進協議会(CONE)理事などもつとめる環境教育、野外教育分野の専門家。

菱井 徹 (御蔵島観光協会)

1965年大阪府生まれ。1994年～2004年に行なわれた御蔵島バンドウイルカ研究会による「御蔵島周辺海域に生息するミナミバンドウイルカの個体識別調査」に参加。1996年に御蔵島に移住。1997年4月より御蔵島村役場発電係勤務。2004年村役場を退職、御蔵島観光案内所に勤務。

青野広明 (南魚沼市観光協会 事務局次長)

1993年より八海山パークホテル「JA 魚沼みなみ」支配人に就任し、2006年より現職。首都圏ファミリー層を対象に、田植え、稲刈り体験をはじめ山菜採りやきのこ狩りなどの農業体験メニューを提供してきた。自身も日本一の評価を得ている魚沼コシヒカリの生産者。

竹田純一 (里地ネットワーク事務局次長)

里地ネットワーク事務局次長、(財)水と緑の惑星保全機構事務局次長。中央大学法学部卒、金融機関、英国技術開発シンクタンク等を経て現職。里地里山の保全、トキの野生復帰の事務局や田園自然再生コンクール審査委員。

熊谷嘉隆 (公立大学法人国際教養大学 助教授)

北海道生まれ。北アルプスの山小屋で働いたことが、利用と保全について考えるきっかけとなる。1990年に渡米し、州立モンタナ大学で自然公園における管理運営や環境収容量に関する研究をした。その後、オレゴン州立大学、ワシントン州立大学を経て2004年から国際教養大学にて教鞭をとっている。現在は北秋田市阿仁地区の山村文化研究をしている。

安類智仁 (尾瀬保護財団 企画課主任)

尾瀬保護財団設立当初から同財団に所属し、尾瀬沼ビジターセンター管理運営、インタープリター養成、社会的調査を担当してきた。尾瀬の収容力調査では、調査をとりまとめる立場として関わった。

水野恭一（風の旅行社 「風カルチャークラブ」 営業部長）

1970年大学卒業後、子供の語学学習の団体に所属し、3年後長野県小谷村梅池高原にてスキーロッジを開業。20年後、宿を売却し1994年(株)風の旅行社に入社。2002年「風カルチャークラブ」を担当し現在に至る。社団法人日本山岳ガイド協会所属公認ガイド。イエティ同人1981年アンナプルナ南壁隊メンバー。

岩本則正（株式会社 JTB 東日本国内商品事業部企画第1課 企画担当課長）

国内旅行の「エース」商品企画部署に所属、沖縄、北海道、九州等の添乗員同行型ツアー企画担当を経て、2004年10月より「ファール」の企画担当となる。全国の地域と連携して、JTBならではの質の高い魅力的なエコツアー商品開発に力を入れている。

松田光輝（知床ネイチャーオフィス 代表取締役社長）

1969年生まれ、地元斜里町出身。(財)日本野鳥の会、(財)知床財団を経て、2006年4月に株式会社知床ネイチャーオフィスを設立。知床で自然ガイドを事業化しエコツアーを定着させる。

南正人（株式会社ピッキオ 代表取締役）

シカの生態を研究している。自然環境を見せることによってお金を生み出すという発想に共感し、ガイド業を始めた。解説をおもしろくし、また競争力を高めるためには、資源に対する深く専門的な研究が必要であると考えている。

愛甲哲也（北海道大学大学院 助手）

鹿児島県出身。北海道大学農学部卒業、大学院環境科学研究科修了。博士(農学)。卒業論文で大雪山登山者の混雑感をテーマにして以来、レクリエーションによるインパクトの把握と、自然レクリエーション地の管理について研究している。研究成果をいかし、情報収集や登山者への普及啓発をおこなう市民団体「山のトイレを考える会」の事務局もつとめる。

茅野恒秀（(財)日本自然保護協会総合プロジェクトAKAYA担当専任スタッフ）

東京生まれ。法政大学大学院で環境社会学を研究しつつ、2001年より日本自然保護協会に勤務。2003年からは、群馬県みなかみ町の地域住民による協議会・林野庁関東森林管理局との長期協定に基づくモデル・プロジェクト「AKAYAプロジェクト」を担当している。

田中直樹（知床財団 普及研修係主任）

東京都生まれ。学生時代の環境省サブレジャーや子供キャンプ指導員などのアルバイト、青年海外協力隊員時に中米で出会った「エコツーリズム」を通して「自然の魅力を伝える」仕事を志す。2003年より(財)知床財団にて自然解説員としてガイド活動を行い、2004年からは知床エコツーリズム推進事業の事務局を担当。

酒井美代子（裏磐梯エコツーリズムカレッジ）

福島県生まれ。結婚後2001年に裏磐梯へ移住。現在は裏磐梯エコツーリズムカレッジスタッフとして活動しながら、一級建築士、福祉住環境コーディネーター、キッチンスペシャリストとして活動中。

安藤泰雄（飯能市環境部エコツーリズム推進室 室長）

環境省エコツーリズムモデル事業開始時から携わり、地域との連携により、エコツアーの企画・実施を行っている。特に地域住民との連携により、ツアー実施者やその組織づくりに力を注いでいる。

(時間・場所・講師等についてはやむを得ず変更する場合がございます。予めご了承ください。)

参加申込み要領

募集定員	: オリエンテーション200名、セミナー180名(定員になり次第、募集を終了いたします)
参加対象	: エコツアー事業者、エコツアー事業に興味のある方、エコツーリズム推進に取り組む自治体関係者、関連研究者、エコツーリズムに興味のある方(どなたでも)
費用	: 参加は無料ですが、交通費、宿泊費などの滞在費は各自のご負担となります。
申込み方法	: 別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。
申込締め切り	: 平成19年1月22日(月)
申込	: <事務局> 財団法人 日本交通公社 担当: 相道(あいどう) 岩城
お問い合わせ先	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 TEL: 03-5208-4726 / FAX: 03-5208-4706 E-mail: apply@try-ecotourism.com

現地のご案内

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター (<http://nyc.niye.go.jp/>)

<最寄り駅> 小田急線参宮橋駅下車 徒歩7分

地下鉄千代田線代々木公園駅下車(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分

東京駅から JR中央線新宿駅乗り換え、小田急線各駅停車 参宮橋駅下車(所要時間約40分)

羽田空港から 東京モノレール浜松町駅乗り換え、JR山手線(外回り)新宿駅乗り換え、小田急線各駅停車 参宮橋駅下車(所要時間約60分)

* 宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。

